

令和４年度 匠瑛市地域包括支援センター事業実績報告

〔直営および西部地域包括支援センターに共通する事業〕

1 総合相談支援

高齢者の様々な相談に応じ、解決に向けて支援した。

(1) 相談実績

○相談形態別（延件数、件）

電話	678
来所	317
訪問	389
その他	45
合計	1429

○相談内容（重複あり）（件）

介護保険関係	483
福祉サービス	87
介護（在宅介護）	128
所得・家庭生活	148
施設入所	87
医療相談	221
苦情相談	15
権利擁護	111
実態把握	291
介護用品	5
支援方針	227
生活全般	104
認知症	258
ケアマネジャー支援	126
その他	23
合計	2314

○相談者（延人数）（人）

本人	514
家族	340
行政機関	99
民生委員	26
医療機関	71
サービス事業者	217
専門機関	51
その他	111
合計	1429

(2) 実態把握訪問

市から依頼があった75歳以上の独居及び80歳以上の高齢者世帯について、142件訪問を実施した。（上記右表中「実態把握」291件に含む）

(3) 民生委員児童委員との連携

民生委員児童委員定例理事会に出席し、地域包括支援センター事業についての情報提供等を行った。

2 権利擁護

(1) 個別相談支援（111件、再掲）

高齢者虐待、成年後見制度及び金銭・書類管理に関する相談支援

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

(1) ケアマネジャー等からの相談に対応し、課題解決のために協働した。

○相談者（延人数）（人）

介護支援専門員	96
サービス事業者	0
主治医	0
民生委員	0
家族	13
利用者（本人）	13
関係機関	4
その他	0
合計	126

○相談内容（件）

ケアマネジメント	22
サービス担当者会議同席	3
社会資源	4
主治医との連携	0
虐待の相談	6
制度説明・確認	3
同行訪問	8
困難ケース	51
家族支援	21
その他	8
合計	126

(2) ひとり体制ケアマネジャー相談会の開催 2回 延13人参加

4 地域ケア会議

(1) 共通する課題に対し、多職種で支援方針の検討を行った。

(件)

支援者が困難を感じているケース	18
自立支援のための地域ケア会議	6
合計	24

[直営地域包括支援センターが主体的な役割を担う事業]

5 認知症支援

(1) 認知症の相談機関としての相談支援

- ① 個別相談 258件（再掲）
- ② 認知症の人の家族交流会〔毎月第3金曜日〕 12回 延54人参加

(2) 認知症の理解促進のための普及啓発

① 認知症サポーター及び認知症ジュニアサポーター養成講座の開催

ア 認知症サポーター養成講座 13回 122人

イ 認知症ジュニアサポーター養成講座

316人（小学校 6回 229人 中学校 1回 87人）

ウ 認知症サポーターステップアップ講座 1回 6人

② 広報そうさ等における周知啓発

世界アルツハイマー月間である9月に認知症支援の取組等の特集を掲載した。（別紙参照）また、同月に八日市場図書館において認知症書籍の特設コーナーを設置し、来館者の目に留まるようにオレンジ色の装飾等を施した。

(3) 早期発見・早期対応等

① 認知症セルフチェックサイトの運用

アクセス数 延2,856回

② 認知症初期集中支援チーム員会議

認知症の人の支援方針について、医師を中心としたチーム員で検討

1回 1ケース

(4) 認知症の本人支援・家族支援

① オレンジカフェ（認知症カフェ）の開催支援

感染拡大防止の観点から開催できなかった。実施主体のボランティア団体が

参加者等向けに「オレンジカフェ ニュース」（参加者へのメッセージやお知らせ等を掲載）の発刊（4回）を行うことになり、その作成を支援した。

② 家族交流会の開催（再掲）

12回 延54人参加

③ オレンジファームの開催支援（令和4年8月開始）

認知症の人の社会参加の機会や介護者等の相談・交流の場をつくることを目的として「認知症と共に生きるオレンジの会」が主体となり活動を開始した。

地域包括支援センターとして協働し、参加者への支援や周知啓発等を行った。

収穫等の開催回数 3回（9月、11月、2月）※他の月は打ち合わせや開催準備等を行った。

(5) 認知症の人を支えるネットワークづくり

① 認知症キャラバンメイト連絡会の開催（1回 13人）

認知症サポーター養成講座等の実施について意見交換等を行った。

※ キャラバンメイトとは、所定の研修を修了し、認知症サポーター養成講座において、講師を務める役割をもった人

② 認知症コーディネーター連絡会の開催（4回 延22人）

今後の認知症施策についての意見交換等を行った。

※ 認知症コーディネーターとは、所定の研修を修了し、地域で認知症の人やその家族の困りごとをキャッチして相談機関等に繋ぐ役割の他、市と一緒に認知症の人の支援体制を構築していく役割をもった人

③ 認知症支援に係る地域ケア推進会議（1回 35人参加）

日ごろ認知症支援に携わる人たちと「認知症の本人の気持ち」を支援方針に組み入れていくことの大切さ等について、グループワーク等とおして意見交換を行い、再確認及び共通認識されるよう努めた。

6 在宅医療・介護連携推進事業

(1) 在宅医療・介護連携に係る研修会の開催

市民講座「わが家の音がきこえる」を開催した。参加者 70人
北海道ホームヘルス研究会（医療系大学と文科省、厚労省の協働研究グループ）
と共催。代表者：スーディ神崎 和代 教授（医療創生大学看護学部）
（内容）

- ①在宅でも医療や介護のサービスを利用して、自分の望む暮らしを選択できる
- ②自分の最期の希望を意思表示するための「事前指示書」について 等の啓発

（2） 市民に対する普及啓発

- ① ACPについて、広報そうさ（11月号）及びホームページにて周知
※ ACPとは、自分自身の将来の医療やケアについて、あらかじめ考えておくこと、また家族等と話し合っておくこと
- ② 医療と介護の連携マップの作成（改訂版）
1,000部作成し、市役所本庁、支所、保健センターの他、市内居宅介護支援事業所、病院等に配布。また、ホームページでも閲覧可能にした。

7 一般介護予防事業

（1） 介護予防普及啓発

- ① 住民主体による介護予防活動として『いきいき百歳体操』の立ち上げ支援
体操実施団体 48団体 参加者数 755人
- ② いきいき百歳体操DVD匝瑳市版の作成
これまで使用してきた高知県高知市版のDVDに代えて新たに匝瑳市版を作成した。匝瑳市版では、従来の百歳体操の筋力運動の内容はそのままに、体操モデルを匝瑳市内のリハビリ専門職に依頼した他、リズム体操等を追加してボリュームアップした。
- ③ 『いきいき百歳体操』の継続実施のための支援
ア 「いきいき百歳体操DVD匝瑳市版 お披露目会」を開催
参加者 112人
目的 a 体操実施団体に匝瑳市版DVDの説明及び配布
b シニアクラブや地区社会福祉協議会等を招待して周知啓発

イ 体操実施団体に栄養や運動に関する専門職等の派遣

(2) 『認知症・フレイル予防教室』の開催

認知症とフレイル予防について医師及び健康運動指導士による講座を開催

開催回数 2回 参加者数 延112人

[DVDお披露目会の様子]



[オレンジファームの様子]

